

自家骨髄幹細胞治療試験の不備の多さが駆出率の改善に影響

心臓病をもつ患者への自家骨髄幹細胞治療を評価した試験の不備が、左室駆出率の改善度に関係しているかについてメタ分析を行った。

2013年4月までの PubMed および Embase についてデータ検索を行った結果、ランダム化比較試験 49 件が対象となり、133 件の報告のなかに 600 以上の不備があった。不備の数は骨髄幹細胞治療による左室駆出率の増加量と有意に関連した (Spearman's $r = 0.4$, $P = 0.005$)。不備がない試験はわずかであったが (5 件)、それらの駆出率改善度の平均値は -0.4%であった。一方、不備の数が 30 を超える試験では駆出率改善度の平均値は 7.7%となった。

試験の不備を防ぐのは困難ではあるが、不備の数が試験の効果に影響するため、認識しておくことは重要である。不備のなかった 5 件の試験で骨髄幹細胞治療の駆出率への効果が全く認められなかったことについては、今後さらなる追究が必要である。

出典 : British Medical Journal. 2014; 348: g2688